

2022年度 関東城岳同窓会 会計報告 (2022.9.1~2023.8.31)

<収 入>		,<支 出>	
年会費(96名)	218,000	通信費	32,873
懇親会費	270,000	事務費	8,690
寄付金	112,000	輸送費	4,120
広告費	0	会議費	28,773
雑収入	0	広告費	32,000
		宴会費	379,847
		諸会費	73,000
		印刷費	103,876
		広報費	0
		雑費	19,621
収入小計	600,000	支出小計	682,800
前期繰越	890,118	次期繰越	807,318
合計	1,490,118	合計	1,490,118

上記の通り会計報告致します。 会計 安次嶺 暁

上記 会計報告書は監査の結果適正であることを認めます。

2023年9月3日 監事 比嘉 良智  
監事 手登根 繁

訃報

—— 心よりご冥福をお祈りいたします ——

松原 茂樹 様 (那覇高 11期) 令和4年4月27日 ご逝去  
吉田永二郎 様 (那覇高 7期) 令和5年2月7日 ご逝去

※事務局が知り得たこの1年間の情報に限りお知らせします

事務局：〒245-0018 横浜市泉区上飯田町 3586-5

伊波方 ☎：045-300-1112

会報編集責任者 大浜 多慧子 ☎：03-3559-7880

関東城岳同窓会ホームページ <https://k-jogaku.com/>

(関東城岳同窓会と入力しても閲覧できます)



# 関東城岳同窓会 会報



第24号 2023年

~~~創立70周年記念号~~~



1966年 城岳会館、県内最初の本格的な建築ブロック教室がまぶしい

提供：城岳同窓会事務局

## 70周年を迎えた関東城岳同窓会

空も秋色に帯びてまいりましたが、皆様にはご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素より同窓会活動に、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

戦後間もない昭和28年、東京で関東城岳同窓会(二中・那覇高の同窓会)として結成されてから、今年で70年を迎えます。長きにわたり同窓会を守り育ててくれた役員の皆様、先輩の方々には感謝の念に堪えません。伝統の重みとともに継続し発展させる責任も感じています。

後続の世代に襷を繋ぐことを念頭に置き心がけてまいりましたが、東京にいる同窓生(中堅世代・若い世代)の把握は容易ではありません。しかし、歩は遅くとも前を向いて進んでいることは確実です。若い世代の幹事から積極的な提案や協力は次のステージへの移行を感じさせてくれます。名門校としての伝統と歴史は色あせることなくこれからも受け継がれ、末広がりになることを心から願っております。

70周年の節目の年、皆様と喜びを分かち合いたいと思います。同窓会でお会いできることを心待ちにしております。

関東城岳同窓会 会長 大浜多慧子



## 卒業60年の追想

那覇高 16期 神成 邦子 (旧姓 知念)

およそ60年前、小柄ながらキビキビと動く一拍子の応援団員がいた。応援歌練習でその一拍子の勇姿のみが鮮明に残っている。よく友人達と城岳に登って歌を唄った。学園祭で「灯台守り」を合唱して優勝した。放課後に立ち寄って談笑した“カドヤ”も懐かしい。

卒業後60年が過ぎ、我々16期生ももうすぐ80歳になる。思えば私は卒業式に出席せず、2月に本土に渡った。ラジオアナを目指してまっしぐらであった。

まるで燃える弾丸のように!!

当然大学では放送研究会に所属、心身共に打ち込んだ一年生の秋に、普段は近寄り難い四年生の大先輩の文連委員に、文連の書記に推された。文連とは、文化団体連合の略で文化系のサークルの総括である。そこで、雄弁会の弾丸的存在の神成と出会った。彼も一年生の秋に次期文連副委員長として選出されていた。私達は二年生の春頃から交際をはじめた。ある教授の紹介で、ある政治団体で活躍していた彼は卒業後そこへ就職、若い情熱を昼夜を問わず注いだ。青年学生部長として全国で二千人の上に立った。



代書道で、全果たし文字がカーの幕上でがて、していは沖婚後一別々の

生活を送ることになる。私は彼との約束であった英会話取得に励んだ。偶然にも友人になった米軍人妻ハイディー・W (ワトソン) に出会った。無論どの英会話学習よりも上達は早かった。3年後、私も独国に赴き二人で地続きの欧州を、まる四ヶ月間車での旅をした。そして米国へ、彼はコロンビア大学へ、私は幸運にも後に爆破されたあのビルに職を得た。今私は、亡夫も愛した二人の娘と三人の孫を持つバーバである。子育てのために始めた公正式教室が41年になり、傍ら仏語の取得に余念がない。いずれ独語にも挑戦したい。これは耳慣れしていて仏語より楽だと思う。

最後に、16期生の方々にエールを送りたい。未だ若い、頑張ろう!!

※写真は16期生4組・5組クラス会

## 関東城岳同窓会70年の歩み

城岳讃歌より抜粋(平成23年発行)

|    | 年 度        | 会 長 氏 名 & 主 な 出 来 事                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 初代 | 1950~1969  | 高嶺元英(二中1期)                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|    | S25~S44年   | *昭和25年10月 県立二中卒業生を会員とする親睦団体として結成。初代会長高橋元英さんを選出したのを受けて「関東城岳同窓会」と称する事になった<br>*昭和28年9月 那覇県立第二中学同窓会と那覇高等学校同窓会が合併して城岳同窓会が誕生したのを受けて「関東城岳同窓会」と称する事になった                                                                                                                                              |
| 2代 | 1970~1977  | 松田信徳(二中9期)                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|    | S44~S52    | *初代会長の辞任を契機に同窓会活性化の機運が高まり、同窓会再建を主題に総会を開催し松田信徳さんが二代会長に就任<br>*沖縄では、二中・那覇高創立55周年事業の一つとして、「体育館建設」を決定、これに伴って寄付金募集への協力が起爆剤となって、会員同士の勉強会や定時総会を持つようになった<br>*初回総会后、役員・幹事の拠出金で同窓会運営基金を作った                                                                                                              |
| 3代 | 1977~1979  | 稲嶺一郎(二中10期)                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|    | S52~S54    | *昭和54年10月、当時参院議員の稲嶺一郎さんが就任。公務多忙のため2年で退任<br>*この頃から那覇高校出身者が見られるようになる                                                                                                                                                                                                                           |
| 4代 | 1979~1995  | 金城侍敬(二中15期)                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|    | S54~H7     | *平成3年5月同窓会の活性化を図るため、初めて二中・那覇高卒業生双方から役員が選出された。                                                                                                                                                                                                                                                |
| 5代 | 1994~1999  | 上江洲太郎(二中19期)                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|    | H7~H10     | *四代会長逝去に伴い、平成6年11月上江洲太郎さんが残り1年を引き継ぐ                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 6代 | 1998~2011  | 山路安清(二中34期)                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|    | H10~H23    | *平成12年8月、那覇高校が夏の甲子園野球選手権大会出場<br>同窓会では、30名のバスツアーで応援に行き、150万円の応援募金による寄付金贈呈<br>*平成12年11月関東城岳同窓会「会報」第1号を発行<br>*平成19年第86回全国高校サッカー選手権大会に、那覇高校が県代表で出場ベスト16迄残る<br>同窓会では5万円贈呈、有志を募り応援した<br>*平成21年9月同好会「島唄会」がNHK TV番組が取材を受け放映された<br>*平成22年6月母校の創立百周年記念事業に対して30万円寄付<br>*平成23年11月二中・那覇高校創立百周年記念誌「城岳讃歌」発行 |
| 7代 | 2012~2017  | 真栄田修(那覇高8期)                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|    | H24~H29    | *2012年~2014年夏、那覇高企画「城岳みらいツアー」で同窓会と参加生徒との交流<br>*2016年12月、2017年12月全国女子高校バスケット2年連続出場応援(東京体育館)                                                                                                                                                                                                   |
| 8代 | 2018~2019  | 比嘉良智(那覇高13期)                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|    | H30~H31/R1 |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 9代 | 2020~      | 大浜多慧子(那覇高17期)                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|    | R2~        | *2022年10月 3年ぶりに総会・懇親会開催(コロナ禍で2020年、2021年は開催見送り)<br>*(2023年10月 70周年総会・懇親会開催)                                                                                                                                                                                                                  |





『沖縄県立第二中学校の凄味と底力』

真栄田 修：那覇高8期（昭和30年卒業）

戦後の昭和28年9月、戦前の二中の同窓会と那覇高の同窓会が合併し『城岳同窓会』が誕生したのを機に、東京でも二中の卒業生が昭和25年に立ち上げた親睦団体を『関東城岳同窓会』と称することになり、今年で70年目を迎えることとなりました。関東城岳同窓会に、那覇高の卒業生が積極的に参加するようになるのは昭和が平成に替わる頃だったように思います。

二中の先輩方と那覇高校出身の我々とは親しくなった切っ掛けは、2000年（平成12年）那覇高が夏の甲子園に出場した際に応援ツアーを編成し、夜を徹して名神高速を突っ走って甲子園に駆けつけた頃からです。加えて、2010年の『二中・那覇高校創立百周年』の年に関東城岳同窓会でも『記念誌』を作成したことが二中の先輩と我々との距離を一気に縮めることになりました。記念誌作成を通じ、二中に関する沢山の出来事を知ることが出来ました。中でも特に印象的だったのが、二中が一中の分校として明治43年（1910年）首里城北殿で産声をあげ、明治45年嘉手納に移転、本格スタートしたものの、その途端に「廃校の危機」や「農学校との並置問題」など不条理な事件を悉く乗り越え、わずか10年前後で本家一中をも凌ぐ県下第一の中学校に仕上げた成功物語があります。

その成功の要因は、①、那覇移転実現のため校長の職を辞し県会議員となりその目的を達成するために獅子奮迅の努力を惜しまなかった初代校長高良隣徳先生の「使命感」。②、「中農分離」実現のために敢然とストライキを執行し、世論を味方につけ、遂に目標を実現した生徒達の「団結力」。③、中興の祖と言われる第四代校長志喜屋孝信先生の、生徒同士の競争心を上手に駆り立てる独特の教育方針を駆使した「指導力」、等々の賜だったのです。志喜屋先生の教育方針のひとつが「成績の見える化」でした。それは、教室内の座席を成績順にしたことです。一見して誰が一番で、誰がビリだと言うことが一目瞭然の仕組みで、生徒は奮起せざるを得なかったのです。

## 同窓会に携わって

那覇高8期 福永 忠彦

関東城岳同窓会に那覇高OBとして参加するようになったのは、昭和もほぼ終わりに差し掛かった頃であった。沖縄県立二中のOBによって設立された関東城岳同窓会は、我々那覇高校関係者にとって当初なじみが薄く、私個人としても同期生たちと昭和50年前後に旧丸ビルの精養軒での同窓会に一回だけ出席したことがあった。当時の会長は、稲嶺一郎さんで、到着されると皆一斉に立ち上がり、拍手で迎えたのを憶えている。その後二中・那覇高の合同総会の開催へと確立されたのである。当時は幹事会を開くにも定まった会議室がなく、その都度沖縄



関連の企業や団体でいた。そのうちという沖縄県の職て県とゆかりのあ時間貸しも行ってさっそく申し込ん以後「若夏荘」が年3月に閉鎖にな総会の会場選びも郷土料理の提供で

の施設を利用して貰っ会員を通して「若夏荘」員宿泊所が信濃町にある団体等には会議室のいるということを知り、で会議室を確保した。常用会場となり、2009まで続いた。同様に悩みの種で、 当時は

きる施設は皆無で、いろいろ迷った挙句、或る幹事の手配で、グランドヒル市ヶ谷が会場に選ばれた。中央線市ヶ谷駅から近くて交通の便もよい会場は、料理の内容も悪くないと思われたが、経営母体が自衛隊の共済組合となっており、会員の中から、自衛隊が関与する施設は避けてほしいという要望が出て別を探すことにした。その後板橋区の文化会館を利用したことがあったが、反省会で幹事の中から場所が都心部ではなく、千葉や神奈川からは遠すぎるとの批判が出て、料理についても不評だった。当時事務局長だった二中OBの山路安清さんが主体となって会に相応しい所を見つけようと情報収集を始めていた。

偶々那覇高31期の湧川ふき子さんの紹介で霞が関ビルの33階にあるレストランを利用することになった。年に一回催される総会はますます盛大になって二中OBの参加者も増え、一時出席者が150名を超えたこともあったほどである。本土との関係も密にされ、校長先生やPTA役員に出席頂き、交流が会員に新しい空気を吹き込んだ。2000年には母校の那覇高校野球部が県代表となって夏の甲子園に出場することが決定した。山路会長以下関東城岳同窓会では有志を募って夜行バスを仕立てて、応援に駆け付けた。第一戦を勝ち進んだ母校ナインに拍手の音は鳴り止まなかった。

個人情報の取り扱いが厳しくなった今、会員名簿の発行など不可能と思われる。今後はインターネットなどを利用して活性化を図ることになるのだろうが、母校愛とボランティア精神に充ちた方々に期待したい。



## 島唄会を振り返って

那覇高8期 長嶺 紀晃

平成14年12月の発足以来、20余年の年月を重ねて来た「島唄会」を振り返って見るに、二中の先輩諸兄のリードがあって今日に至ったことに感謝し、以下に幾人かの貢献を要約する。

会の発足当初、池之上光夫さん(二中31期)は、島唄について皆さんのご意見・ご希望を集約してバインダー付の歌詞集を作成して下さい、更に歌が増える度に挿入頁を作成して島唄の輪郭が整って行った。

会の盛り上げ役は藤井和雄さん(二中31期)。毎回小話や手品などで会を和ませ、又「熱海ニューアカオ」への旅行では会場の予約を含め先導して下さい。

山路安清さん(二中34期)は最大の貢献者。殆ど毎回、ウチナー口を交え戦前の沖縄の生活、四季折々の行事、遊び等々、を解説して下さい。外に、兄上徳田安周さんの「軽便鉄道節」の紹介や、疎開児童の証言集「ヒーサン・ヤーサン・シカラーサン」を、ご自身の疎開経験も交え解説して下さい。

国吉徹さん(二中29期)は80才過ぎてから、ひめゆり同窓会々長 崎浜和子さんの舞踊教室に入門し、安里やユンタなど幾つかの踊りを習得し、披露して下さい。北村紀雄さん(二中29期)は、何時も静かに会を楽しんでおられたが、ある時「平和の礎」に尊父の刻銘があるかを確認したいとのお話があり、平和祈念堂の比嘉正証所長に照会したところ、北村秀一沖縄農事試験場々長刻銘の確認と、更に尊父は戦時中も沖縄の食料事情を気遣い、敵弾に倒れるまで現場で頑張った、との解説付きの手紙を頂いた。そして私はH27年4月11日の「平和の礎刻銘追悼清明祭」に参列し、手を合わせた。

次に、H21年9月15日のNHKの「こんにちはいっと6けん」で、島唄会の活動がメディアに取り上げられ、放映されたことを挙げる。番組収録時に先立ち、山路さんの沖縄関連蔵書、お庭のゴーヤー、空手の巻藁、等がNHK担当レポーター上村陽子さんの興味を引き、収録を決定づけた。

「いっと6けん」はその後「くらしり」と番組は変わったが、上村陽子さんは担当を引き継いでいて、自分とのメールの交信も続いている。

尚、島唄会は令和5年5月、次世代の「青春会」として若返る事になった。

今後の発展を心から期待する。

※写真は「結マール」にて



## 同期会だより

城岳の絆再び 那覇高11期同窓会(1958年卒業)ザ・ナハテラス 4/27



2019年4月に予定していた会が新型コロナの感染拡大により延期となり、このたび85歳のトゥシビー(成年祝)を兼ねる形で7回目開催が実現した。当日は本土から駆け付けた8人を含め72人が参加。世話役代表の赤嶺勇さんは「次回のカジマヤー(97歳)まで到達できる人が何名いるのか想像もつかない」と笑いを誘い、幹事と進行役を務めた国場勝志さんは前回の開催から6年の間に鬼籍に入った28人に対する黙祷を呼びかけた。島袋節子さんは校歌斉唱を先導。安谷屋武志さんが乾杯の音頭を執り、参加者らは和やかに旧交を温めた。(提供:オキナワグラフ2023年6月号より/撮影・村山望)

## 上野公園で在京那覇高校12期同期会

桜満開の4/2



花見後、居酒屋で2次会



女性2人と男性8人の10人が集いました  
何と高良君は毎年沖縄から参加!